

第 6 回コミュニティバス検討会議の発言内容

【高齢者割引の証明方法について】

- 1 独自証明書を乗車時に提示したうえ、割引料金を支払う又は IC カード機器の操作を乗務員が行いタッチする方法は、相当な手間がかかり、運行に影響が出る懸念がある。
- 2 1 に伴う運行への大きさは、一般の IC カード利用者の乗降時間が短縮されることとの兼ね合いで、許容範囲に収まるかどうかは実施してみなければ分からない。
- 3 シルバーパスを証明書として代用すれば、対象者の要件は同一なので合理的である。
- 4 70 歳以上が持つ高齢者受給者証、75 歳以上が持つ後期高齢者受給者証で代用する方法も考えられる。重要な証明書ではあるが、プラスアルファを与えて活用できれば効果的だと思う。
- 5 高齢者受給者証等は、通院時以外の時には持ち歩かないのが一般的だと思う。そのため、それをちゅうバスの証明書として代用するには相当周知する必要があるし、浸透するかも疑問がある。

【高齢者割引について】

- 1 高齢者の負担を軽くするより、路線を充実させる方がいい。
- 2 ちゅうバスの当初の理念である交通弱者への支援を重視し、高齢者への割引制度を設けるべきである。
- 3 個人的には、100 円が 150 円に値上げされたとしても、そのことでちゅうバスの利用を控える感覚はない。
- 4 人口推計を見ると、府中市ではそれほど高齢化が進んでいないと見受けられる。高齢者割引の要件が 70 歳以上か 75 歳以上かで収支予測に大きな差がなく、交通弱者支援の理念を踏まえると、一般を 150 円で 70 歳以上を 100 円とする案を強く否定する根拠はない。
- 5 シルバーパスは年齢要件に加え、所得により取得費用が変わるが、府中市の場合にその点を加味するかどうか整理した方がいい。
- 6 150 円は金額的には安い料金である。それにも関わらずさらに割引をするということであれば、特段の理由が必要である。高齢者でも全員が移動に困難を抱えているわけではなく、経費をかけて全対象者に証明書を送付することも市民の理解を得られるか疑問である。
- 7 高齢者割引の有無は、府中市として、高齢者福祉対策への考え方がそのまま出てくると思う。

- 8 交通弱者の支援をちゅうバスを通すことか運賃を安くするか、どちらを中心に考えるかを整理する必要がある。
- 9 高齢者割引の根拠を説明するには、高齢者福祉所管部署との調整が必要ではないか。
- 10 高齢者割引を行ううえでの説明を、差をつけることが政策であるとするか、激変緩和の経過的な措置とするかでは大きな違いがある。